

令和6年8月21日

管内組合員の皆様へ

日向川土地改良区 工務課  
( 事務連絡 )

## 7.25 豪雨災害による施設被害状況の確定と今後の見通しについて (第四報)

8月3日付、第三報に続いて現在の状況をお知らせします。被災施設の復旧もしくは仮復旧が済み、中山間地を除く各地区への配水は順調に行えています。日向川頭首工の流木撤去と瀬替え工事は8月5日完了し、通常通りの取水・配水が行えています。また、下井皿頭首工の閉塞は8月3日に解消し、西荒瀬方面への通水は順調に行えています。新豊井堰揚水機場は導水路に土砂堆積があるものの、取水への影響は限定的ですので、9月15日のかんがい期間終了を待って対応する予定です。

### 〔8月21日時点の取水・配水状況について〕

災害発生以降はまとまった降雨が無く、2級河川日向川・荒瀬川の水位低下が進んでいます。日向川頭首工は現在満量取水が可能ですが、荒瀬川頭首工は3割程度の取水に落ち込んでいます。不足は最上川（草薙頭首工）からの供給分で補えていますので、各地区において不足感が生じていないものと思います。対して、日向川右岸地区（鳥海地区、遊佐方面）と観音寺地区（旧八幡町域・荒瀬川北側）は水源を日向川のみ依存しているため、水位低下が更に進んだ際は不足感が生じてくるものと思われます。ただし、22日以降の天候は降雨が続く予報が出ていますので、干ばつの発生には至らない見込みです。

### 〔中山間地（大沢地区、日向地区）の状況について〕

荒瀬川添いの大沢地区は今回の災害によって甚大な被害を受けており、取水口や導水路の流失や損壊、ほ場への土砂流入、揚水機所の流失や水没など、ほぼ全ての施設が被災しました。健全な施設はなく、配水可能な地域に関しては大口径ポンプを活用（大平沢、若神子、南野前田、塚沢、大畑、白玉）しています。今期に限る臨時対応であるため、今後の施設の復旧時期に関しては未定です。用水源の確保自体が困難になっている地域がありますが、河川整備と同時に農地復旧を行っていく必要があります。水稲ほ場として災害前のように復旧出来るかは未定です。

日向川添いの日向地区も大沢地区と同様に被害を受けています。同地区は大台堰を代表として取水源が高地にあり、かつ導水路が長いため、所々で地山の崩落が発生して用水供給が困難な地域が発生しています。土側溝の水路も多く、重機が入れない場所も多いため復旧時期などは未定です。他には赤剥新出堰なども被災しましたが、用水供給が出来ない地域が発生しています。日向地区は被災度合の大小があるため、地元組織と協力しながら確認と対応を進めています。

## < 福島揚水機場の被災について（全損確定） >

「福島揚水機場」は災害が発生した 7 月 25 日の午後には周辺道路が冠水し、機場地下にある揚水機が水没しました。また、地上部にある高圧受電盤、操作盤、TM/TC 盤の全てが冠水しています。

翌日 26 日の朝には水は引いており、機場内の状況確認が出来るようになったことから、職員の確認と次いでメーカーの点検を行いました。また、8 月 1 日に東北電気保安協会が確認し、全損が確認されました。電気設備が被災したことで今期の運転は絶望的であり、来年春の代掻き期間も運転出来る見込みも不明です。高圧受電設備の重要機器類は納期に半年から 1 年を要し、操作盤も製造・据付に最低 1 年を要します。地域は全体がパイプラインによる自然圧方式であるため途中からの注水手段はなく、復旧までは日向川頭首工からの取水で賄うことが強いられる状況です。

復旧方法はこれから調整を行っていきますが、災害復旧における対応は 2～3 年を要する可能性があります。更新に至るまでは用水の不足がある中で対応する必要があるため、両止幹線管理委員会と相談を行い、通常 2 ブロック制を 1 日おきの 3 ブロック制に変更（別添資料参照）しています。福島揚水機場からの揚水機供給が出来ませんので、地区関係組合員の皆様、入作の皆様にはブロック給水の遵守とかけ流しは行わないようご協力をお願いいたします。

[福島揚水機場敷地外]



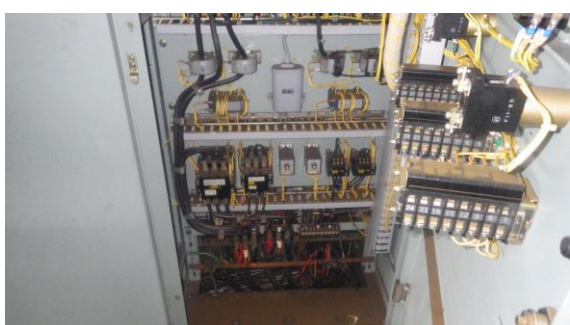
[福島揚水機場敷地内（水没時）]



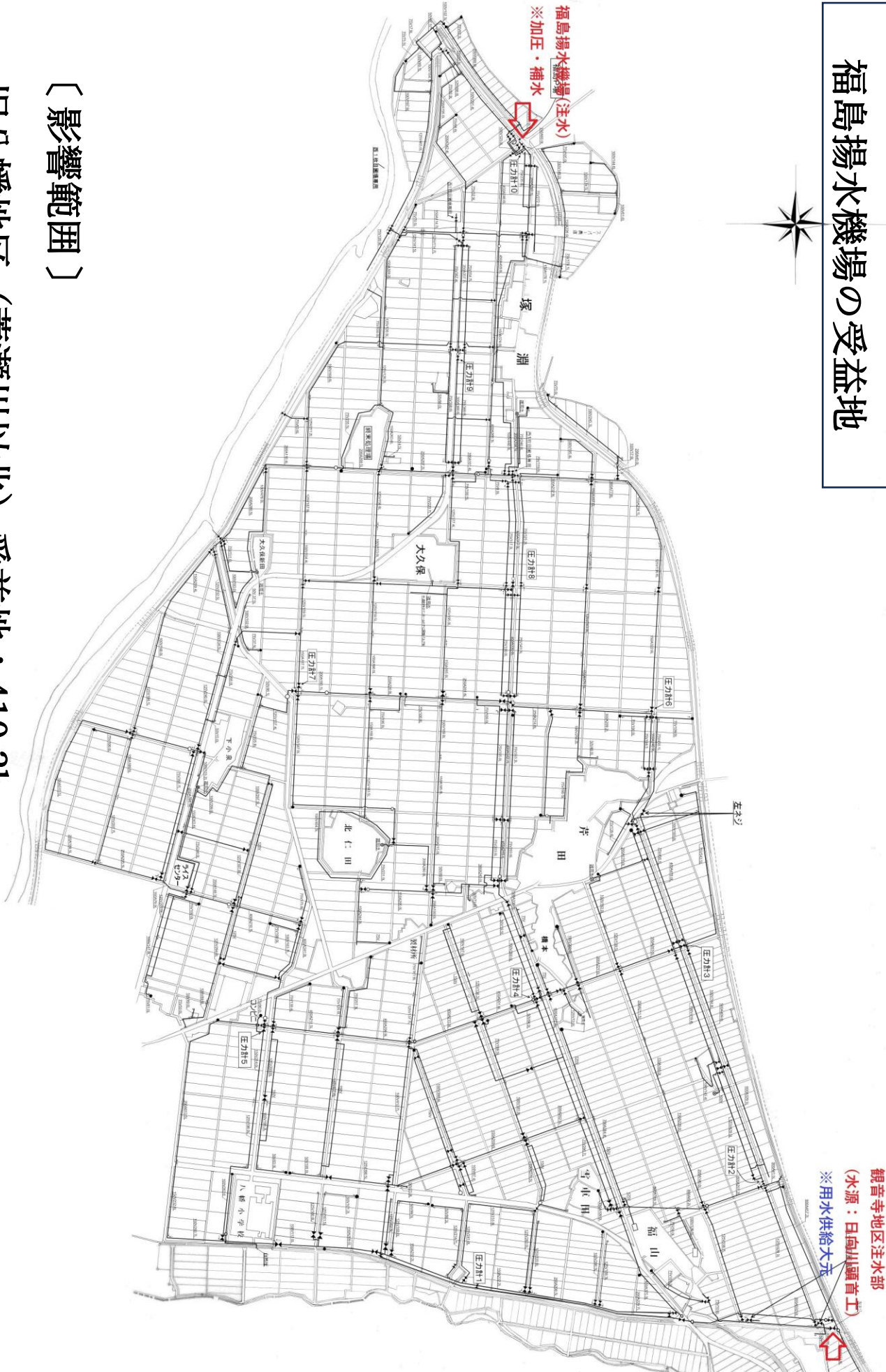
[機場内水没]



[電気設備冠水（半分）]



# 福島揚水機場の受益地



〔影響範囲〕

旧八幡地区 (荒瀬川以北) 受益地：410.3ha



## < 宮内揚水機場の被災について（全損確定） >

「宮内揚水機場」は災害が発生した7月25日の午後に草田川が氾濫し、南側の公園とともに冠水して設備が全て水没しました。高圧受電盤、操作盤、TM/TC盤の全てが冠水、揚水機のモーターや除塵機も完全に冠水したことから、今期の運転開始の見込みは絶望的であり、来年度の代掻き期間も運転出来る見込みは不明となっています。高圧受電設備の重要機器類は納期に半年から1年を要する物があり、また操作盤も製造・据付に最低1年を要する見込みです。地域は全体がパイプラインによる自然圧方式であるため途中からの注水手段はなく、復旧までは日向川頭首工からの取水で賄うことが強いられている状況です。

復旧方法はこれから県と調整を行っていきますが、災害復旧を活用した実施を想定しています。その場合、災害査定等によって実発注が遅れるため、復旧には長期化が予想され、完全復旧は発注時期によるものの、早くても来年度中、もしくは再来年度のかんがい期間以降になることが想定されます。他にも「興休揚水機場」の除塵機が冠水（機場内は被害無し）、水路への土砂堆積等が生じており、運転再開の見込みはありません。

現状、日向川右岸地区ではほぼ感じられない程度の不足感と思われませんが、今後の配水に関しては降雨の頻度や量に頼る部分が多い状況です。万全な状況ではありませんので、ABブロックを守り、かけ流しはしないようご協力をお願いします。

[ 宮内 揚水機場（被災後） ]



[ 宮内 除塵機建屋 ]



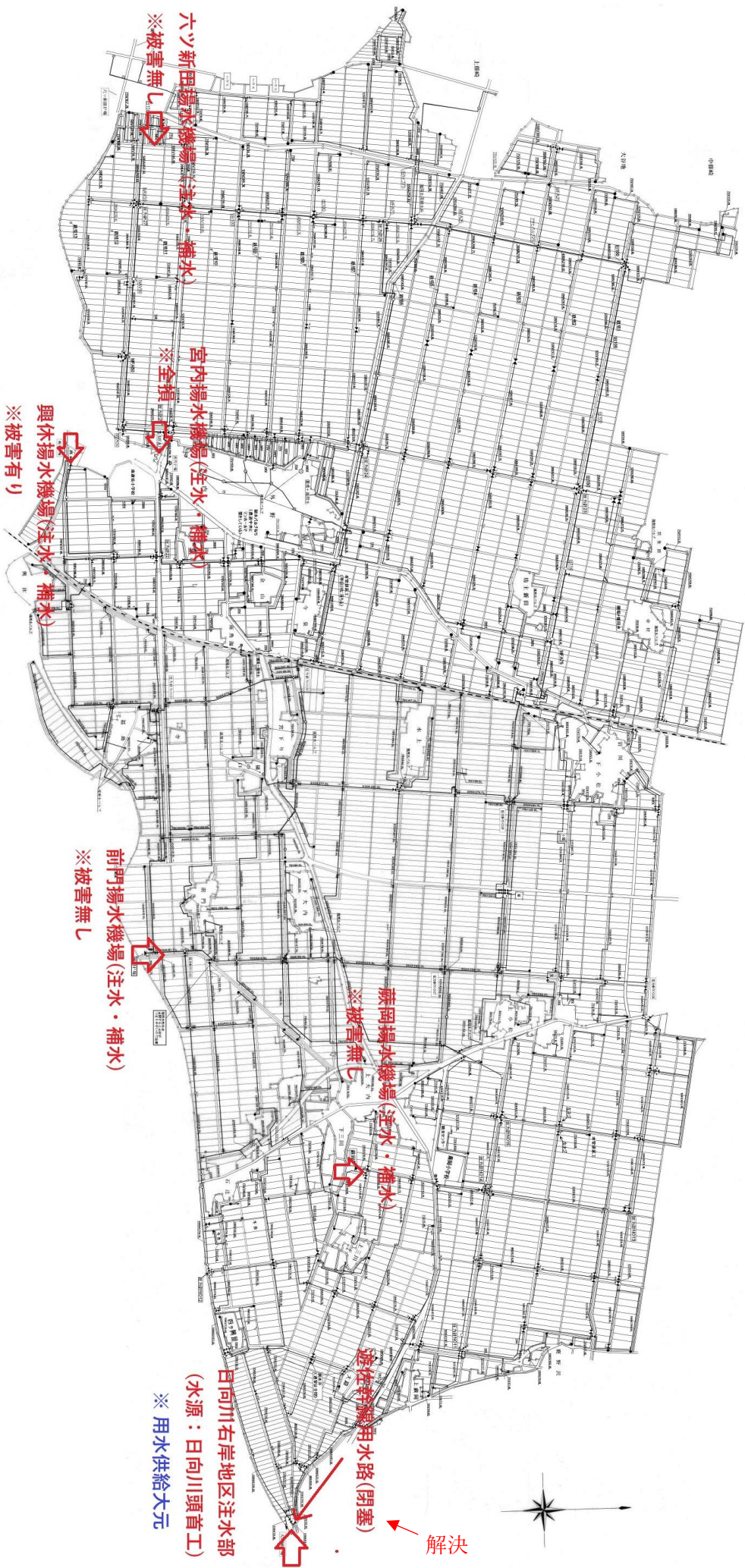
[宮内 機場内水没]



[ 興休 除塵機 ]



# 日向川右岸地区 (宮内揚水機場の受益地)



〔影響範囲〕

日向川以北 受益地：1,240.7ha